

標 準 様 式

目 次

1. 精度管理表

【基準点測量】

- 様式第 1-1 基準点測量精度管理表 その 1
- 様式第 1-1-1 基準点測量精度管理表 その 1-2
- 様式第 1-1-2 基準点測量精度管理表 その 1-3
- 様式第 1-2 基準点測量精度管理表 その 2
- 様式第 1-3 水準測量精度管理表

【地形測量及び写真測量】

- 様式第 1-4 解析結果 精度管理表(Loosely Coupled 方式)
- 様式第 1-5 解析結果 精度管理表(Tightly Coupled 方式)
- 様式第 1-6 調整点測量 (単点観測法) 精度管理表
- 様式第 1-7 調整処理 精度管理表 (数値図化用データ補正)
- 様式第 1-8 合成結果 精度管理表
- 様式第 1-9 標定点設置精度管理表
- 様式第 1-10 簡易水準測量精度管理表
- 様式第 1-11 対空標識設置精度管理表
- 様式第 1-12 フィルム航空カメラ撮影コース別精度管理表
- 様式第 1-13 フィルム航空カメラ撮影ロール別精度管理表
- 様式第 1-13-1 残存縦視差の測定
- 様式第 1-14 撮影コース別精度管理表 (空中写真の数値化)
- 様式第 1-14-1 撮影ロール別精度管理表 (空中写真の数値化)
- 様式第 1-15 デジタル航空カメラ撮影コース別精度管理表
- 様式第 1-16 GNSS / IMU 計算精度管理表
- 様式第 1-16-1 GNSS / IMU 計算精度管理表 (航空レーザ測量)
- 様式第 1-17 同時調整精度管理表
- 様式第 1-18 細部測量・地形補備測量・地図編集・数値編集・補測編集・
数値地形図データ作成精度管理表
- 様式第 1-19 数値図化精度管理表
- 様式第 1-20 数値地形図データファイル精度管理表
- 様式第 1-21 写真地図作成精度管理表
- 様式第 1-22 グラウンドデータ作成作業精度管理表
- 様式第 1-23 グリッドデータ作成作業精度管理表
- 様式第 1-24 数値地形図データファイル精度管理表 (航空レーザ測量)

【応用測量】

- 様式第 1-25 条件点測量精度管理表
- 様式第 1-26 IP 設置測量精度管理表
- 様式第 1-27 中心線測量精度管理表
- 様式第 1-28 縦断測量精度管理表
- 様式第 1-29 横断測量精度管理表

- 様式第 1-30 用地幅杭設置測量精度管理表
- 様式第 1-31 境界測量精度管理表
- 様式第 1-32 用地実測図データファイルの作成精度管理表
- 様式第 1-33 用地平面図データファイルの作成精度管理表

2. 品質評価表

- 様式第 2-1 品質評価表（総括表）
- 様式第 2-2 品質評価表（個別表）

3. 成果等

【基準点測量】

- 様式第 3-1 基準点成果表 その 1
- 様式第 3-2 基準点成果表 その 2
- 様式第 3-3 点の記
- 様式第 3-4 水準測量観測成果表
- 様式第 3-5 地盤沈下調査水準測量成果表（変動計算簿）
- 様式第 3-6 水準点の記
- 様式第 3-7 成果数値データファイル標準様式
- 様式第 3-8 基準点現況調査報告書
- 様式第 3-9 測量標設置位置通知書
- 様式第 3-10 測量標新旧位置明細書

【地形測量及び写真測量】

- 様式第 3-11 対空標識点明細表
- 様式第 3-12 フィルム航空カメラ撮影記録簿
- 様式第 3-13 デジタル航空カメラ撮影記録簿
- 様式第 3-13-1 デジタル航空カメラ撮影諸元
- 様式第 3-14 固定局観測記録簿
- 様式第 3-15 空中写真数値化 作業記録簿・点検記録簿
- 様式第 3-16 航空レーザ測量システム点検記録
- 様式第 3-17 固定局明細表
- 様式第 3-18 航空レーザ計測記録
- 様式第 3-19 調整用基準点・コース間点検箇所配点図
- 様式第 3-20 調整用基準点明細表
- 様式第 3-21 三次元計測データ点検表
- 様式第 3-22 調整用基準点調査表
- 様式第 3-23 コース間点検箇所残差表
- 様式第 3-24 欠測率調査表
- 様式第 3-25 調整用基準点残差表
- 様式第 3-26 既存データ検証結果表

【応用測量】

- 様式第 3-27 縦断測量成果表
- 様式第 3-28 点の記

様式第3-29 土地境界確認書

様式第3-30 土地調査表

様式第3-31 建物の登記記録等調査表

様式第3-32 権利者調査表

4. 建標承諾書

様式第4-1 建標承諾書（基準点）

様式第4-2 建標承諾書（水準点）

1. 精 度 管 理 表

基準点測量精度管理表

基準点測量精度管理表 その1

作業名	地区名	計画機関名	作業機関名	点検者	⑩
目的	期間	作業量	主任技術者	⑩	

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算			偏心	再測数	厳密網平均計算			摘要	
					水平位置	標高	閉合差			許容範囲	閉合差	許容範囲		高低角の標準偏差
										再測率				

測点番号	距離		離		水		平		角		直		角	
	点検値	採用値												

主要機器名称及び番号	
種別	数量
永久標識の種別等 埋設形式	
特記事項	

用紙の大きさはA4判とする。

基準点測量精度管理表 その1—2

作業名	地区名	計画機関名	作業機関名	点検者	④						
目的	期間	作業量	主任技術者	④							
路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算	偏心	再測数	厳密網平均計算			摘要
								水平位置	標高	新点位置の標準偏差 (m)	
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲	標高	許容範囲	
					閉合差	許容範囲			水平	許容範囲	
									点番号		

点検測量					
測点番号	距離	距離	水平		鉛直
			点検値	採用値	点検値
			点検値	採用値	較差
			点検値	採用値	較差
			点検値	採用値	較差

主要機器名称及び番号	
永久標識の種別等	
種別	埋設形式
数量	
特記事項	

用紙の大きさはA4判とする。

基準点測量精度管理表 その1-3

作業名	地区名	計画機関名	作業機関名	点検者	⑩
目的	期間	作業量	主任技術者		⑩

路線番号	測点番号	路線長	内角数	辺数	点検計算				廠密網平均計算				摘要	
					水平位置		標高		新点位置の標準偏差 (m)					
					閉合差	許容範囲	閉合差	許容範囲	点番号	水平	許容範囲	標高		許容範囲

点検測量										
測点番号	距離		離		水平		鉛		角	
	点検値	採用値	較差	採用値	較差	採用値	較差	採用値	較差	

簡易網平均計算						
各路線の残差						
路線番号	方向角 (")	許容範囲 (")	座標差 (cm)	許容範囲 (cm)	高低差 (cm)	許容範囲 (cm)

用紙の大きさはA4判とする。

基準点測量精度管理表 その2

作業名	地区名	計画機関名	作業機関名	点検者	⑩
目的	期間	作業量	主任技術者		⑩

基点名 自： 至：	基線解析辺		仮定三次元網平均				三次元網平均計算	
	辺長 (斜距離)	ΔX 又は方位角	ΔY 又は斜距離	ΔZ 又は楕円体比高	斜距離の残差	残差	許容範囲	
		残差	許容範囲	残差	許容範囲	残差	許容範囲	

主要機器名称及び番号		
種別	数量	埋設形式
永久標識の種別等		
特記事項		

測点名		セッション番号		較差 (dN, dE, dU)	
自：	至：	点検値 ($\Delta X, \Delta Y, \Delta Z$)	採用値 ($\Delta X, \Delta Y, \Delta Z$)	許容範囲	

新点名	新点位置の標準偏差		標高	
	標準偏差	許容範囲	標準偏差	許容範囲

用紙の大きさはA4判とする。

水準測量精度管理表

作業名	地区名	計画機関名	作業機関名	点検者	④
目的	期間	作業量	主任技術者		④

環番号	距離	閉合差	許容範囲	観測者	距離	鎖部数	観測者毎標準偏差	正の回数	負の回数	零の回数	正の総和	負の総和	摘要	特記事項
														単位重量当たりの観測の標準偏差

主要機器名称及び番号	観測路線図	再測率								
永久標識種別等		点検測量								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">区間</td> <td style="width: 25%;">距離</td> <td style="width: 25%;">点検値</td> <td style="width: 25%;">採用値</td> <td style="width: 20%;">較差</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	区間	距離	点検値	採用値	較差			
区間	距離	点検値	採用値	較差						

用紙の大きさはA4判とする。

調整点測量（単点観測法）精度管理表

セット間較差許容範囲

$$\Delta X (\Delta N)、\Delta Y (\Delta E) = \quad m$$

$$\Delta H (\Delta U) = \quad m$$

観測点 番号 名称	座標	1セット (m)	2セット (m)	セット間 較差 (m)	平均値 (m)	備考
	X					
	Y					
	H					
	X					
	Y					
	H					
	X					
	Y					
	H					
	X					
	Y					
	H					
	X					
	Y					
	H					
	X					
	Y					
	H					
	X					
	Y					
	H					

- セット間較差の許容範囲は、X、Y座標、H（標高）の比較とする。

合成結果 精度管理表

作業名		走行路線名	計画機関	主任技術者	
地区名		システム名	作業機関	点検者	

No.	特徴点座標			ファイル名 (1)			ファイル名 (2)			ファイル名 (3)			ファイル名 (4)			備考
	X	Y	Z	dx	dy	dz										
1																
2																
3																
4																

注 1. 特徴点座標には、全ファイルを座標変換して合成する場合には合成結果を
 特定のファイルを基準にして合成する場合には特定ファイルでの座標を記載する。
 注 2. 合成の基準となったファイルの残差は 0 となる。
 注 3. 許容範囲は 1 画素。

標定点設置精度管理表

地区名		作業量		作業機関名		主任技術者		点検者		
						印		印		
点名	測量方式	平均法	座標較差 (最大)		高低の誤差又は較差 (最大)	内角の閉合差 方向角の較差 (最大)				
			X	Y						
			m	m	m					
使用機械						備考				

用紙の大きさはA4判とする。

注 1. 測量方式は、結合多角、単路線等を記入する。
 2. 平均法は、厳密水平(高低)網、簡易水平(高低)網又は三次元網平均等を記載する。

簡易水準測量精度管理表

作業名又は 地区名		作業量		作業機関名		主任技術者		点検者	
		点				印		印	
路線番号	距離	閉合差の 許容範囲	閉合差	路線番号	距離	閉合差の 許容範囲	閉合差		
	km	mm	mm		km	mm	mm		
使用機器						備考			

用紙の大きさはA4判とする。

注 閉合差の制限は、 $50 \text{ mm} \sqrt{S}$ （既知点から既知点までの閉合差）、 $40 \text{ mm} \sqrt{S}$ （環閉合差）により算出する。
Sは観測距離（片道、km単位）とする。

対空標識設置精度管理表

地区名		作業量		作業機関名		主任技術者		点検者	
		点				印		印	
明細簿 ページ	点名	写真番号		型	像の 見え	偏心距離	計算	備考	
		コース	写真						
磁針定数決定箇所		使用既知点数		定数の決定法		備考			
箇所		点算出							

用紙の大きさはA4判とする。

注1. 4倍以上の部分引き伸ばし空中写真上での対空標識の写りを次の判別記号で表示する。

◎：良く見える ○：なんとか判別できる ⊗：間接（p₂）表示

2. 計算の欄は、再計算の有無等について記入する

残存縦視差の測定 (mm)

1 +	2 +	3 +	4 +	5 +
6 +	7 +	8 +	9 +	10 +
11 +	12 +	13 +	14 +	15 +
16 ○+ 主点	17 +	18 +	19 +	20 +○ 主点
21 +	22 +	23 +	24 +	25 +
26 +	27 +	28 +	29 +	30 +
31 +	32 +	33 +	34 +	35 +

用紙の大きさは A4 判とする。

注 1. 残存縦視差の測定位置は、主点基線を軸として密着写真上で横 2 cm、縦 3 cm の間隔を標準とする。

2. 出力データと対比できるように、測点番号を明記する。また、縦視差が制限を超えた地点は、その大きさを明記する。

デジタル航空カメラ撮影コース別精度管理表

地区名			地図情報 レベル	地上 画素寸法	基準面高 地面高	撮影高度	コース間	C	-	%	作業名 機関名
コース			計画	cm	m	m	最小重複度	C	-	%	
カメラ名							No.	cm	m	m	統合処理記録
焦点距離	mm		No.	cm	m	m					統合日
飛行方向	撮影						差	cm	差	%	データ量
N 90° W → E S	月	日	h:m	差	cm	%					画像形式
							データ形式	非圧縮TIFF形式			

写真番号		採 否	実体空白部	コース方向 重複度		回転・傾斜角			航 跡 の ず れ m	統合処理良否			光輝暗影		シャド ー	ス ッ ポ ー ト	ボ ケ ・ フ レ	雲 ・ 霧 影 ・ 霧	サ ム ネ イ ル	画 像 確 認	その他	※障害	
No.	編集 番号			最小 OL	主点 基線長	K	φ	ω		対 応 点	同 定 精 度	原 画 像	情 報 劣 化	色 調									ハ レ ー シ ョ ン
				%	%																		
集計				(最小値) %	(最大値) %			(最大値) %	(最大値) %	(最大値) %	(最大値) %												

※ 監督所見																						
※ 検査所見																						

注1. ※印の欄は、計画機関が記入する。
 2. ハレーションは、場所の判別(海、川、池、屋根等)を記入する。
 3. 撮影高度は、大きい方の値を(撮影高度) - (計画撮影高度) = 差(m)
 差 ÷ (計画対地高度) = %
 4. 飛行方向は矢印と飛行方向角を記入する。

用紙の大きさはA4判とする。

細部測量・地形補備測量・地図編集・数値編集・精度管理表 補測編集・数値地形図データ作成

作業名又は地区名		図名又は図面番号		縮尺		作業量		作業期間		作業機関名		主任技術者		点検者		
						自 至		年 月 日 年 月 日				印		印		
境界等 (11**)	項 目	種類	脱落	誤記	項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記	項 目		脱落	誤記
					公共施設	形状			形状	区域形状			図名又は図面番号	図郭及び方眼寸法		
道路 (210*)	形状	道路記号・道幅			記念碑等 (420*)	諸地 (621*)			記号の種類	※			座標値等			
道路	形状				消火栓 (421*)	場地			記号の種類	整			概見図行政区画図			
道	橋	(220*)			噴水・井戸(422*)	622*,3*			記号の位置	飾			方位			
路	階段・トンネル	(221*)			タク・高塔 (423*)	植 生			植生境界等形状	等			図歴等			
施	構造物	(222*)			灯台 (424*)	(63**)			植生記号の種類				その他			
設	側溝・並木	(223*)			観測所 (425*)	等高線 (71**)			形状	接			合			
	道路標識等	(224*)			輸送管 (426*)	変形地 (72**)			数値							
鉄 道	付属物	(225*,6*)			形状 (51**)	水 部			種類							
(23**)	記号及び軌道幅				栈橋 (520*)	水 部			形状							
	形状				護岸 (521*)	構 造 物			位置・種類							
鉄 道	橋・トンネル	(240*,1*)			滝・水門 (522*)	水 部			数値							
施 設	雪覆い等	(242*)			水制 (523*)	構 造 物			行政名							
建 物	種類				流水方向 (524*)	法 面			居住地名							
(30**)	形状				距離標 (525*)	構 造 物			交通施設							
	建物付属物	(34**)			人工斜面 (610*)	法 面			建物等							
建 物	種類				被覆 (611*)	法 面			小物体							
(35**)	位置				法面保護 (612*)	構 造 物			水部等							
	種類				さく (613*)	構 造 物			土地利用							
					へい (614*)	構 造 物			地形等							

用紙の大きさは A 4 判とする。

- 注 1. 各工程作業ごとに、該当する項目を選んで図面単位に作成する。該当しない項目欄には斜線で抹消する。
 2. 各項目の脱落、誤記等は点検紙に基づいて集計し、その個数を記載する。
 3. ※印欄は、地形補備測量の場合記載しない。
 4. (***)は、取得分類コードを示す。

数値図化精度管理表

図郭及びモデルの範囲

作業機関名	
主任技術者	
点検者	

年月日	年月日
自	至
年月日	年月日

モデル番号	1	2	3	4	5
図化機名					
作業員					

モデル番号	写真番号	対地標定記録 (上段:基準点、下段:バスポイント等)		標準使用点数	接合の良否
		平面位置の標準残差(m) [*]	標高の標準残差(m)		
1	左	0.1以内	0.7以内	1.0以内	1.5を超える
2	右	0.2以内	0.5以内	1.0以内	1.5を超える
3		0.3以内	0.5以内	1.0以内	1.5を超える
4		0.2以内	0.7以内	1.0以内	1.5を超える
5		0.1以内	0.5以内	1.0以内	1.5を超える

モデル番号	図式分類 (図化漏れ数、誤コード数)										備考											
	境界等	道路	道路施設	鉄道	鉄道施設	建物	建物付属物	建物記号	建物記号	公共施設		その他小物体	水部	水部構造物	水部	水面構開	諸地場地	植生	等高線	変形地	基準点	注記
1	(11**)	(21**)	(22**)	(23**)	(24**)	(30**)	(34**)	(35**)	(41**)	(42**)	(51**)	(52**)	(61**)	(62**)	(63**)	(71**)	(72**)	(73**)	(81**)			
2																						
3																						
4																						
5																						

用紙の大きさはA4判とする。

注1 *平面位置の標準残差は第80条で規定する各地図情報レベルの誤差の許容範囲で判断する。

注2 図葉単位に作成する。

数値地形図データファイル精度管理表

作業名又は地区名	図郭名又は図郭識別番号	地図情報レベル	作業量	作業期間	作業機関名	主任技術者	点検者
				自 年 月 日 至 年 月 日		印	印

項目	細目	範囲	論理	目視	項目	細目		範囲	論理	目視	項目	細目		範囲	論理	目視													
						図郭	要素数					座標系	計画機関名				図郭識別番号	内容記述	図郭名称	地図情報レベル	タイトル名	座標値の単位	作成年月	現地調査年月	入力機器名	公共測量承認番号	測地成果識別コード	図郭識別コード	変換手法識別コード
ファイル形式	レコード長	ファイルごと			レコード記述内容	図郭	要素数		レコードごと			レコード	注記	レコード			レコードごと												
	文字コード		要素				線号				注記																		
	記述書式		実データ				座標				座標																		
	格納方式		グリッド				属性				属性																		
レコード間相互関係	ラベル	ファイル全体			レコード	図郭	要素		レコード			レコード・フラッグごと	座標データの重複	レコード・フラッグごと			レコード・フラッグごと												
	要素ヘッダ		要素				注記																						
	要素ヘッダ		要素				座標値の単位				座標値の単位									座標データの重複									
	要素ヘッダ		要素				作成年月				作成年月									データの重復									
	要素ヘッダ		要素				現地調査年月				現地調査年月									方向性									
	要素ヘッダ		要素				入力機器名				入力機器名									属性データ									
	要素ヘッダ		要素				公共測量承認番号				公共測量承認番号									方向性									
	要素ヘッダ		要素				測地成果識別コード				測地成果識別コード									方向性									
	要素ヘッダ		要素				図郭識別コード				図郭識別コード									取得分類									
	要素ヘッダ		要素				変換手法識別コード				変換手法識別コード									取得分類									
	要素ヘッダ		要素				作業機関名				作業機関名									情報分類									
	要素ヘッダ		要素				撮影コース番号				撮影コース番号									取得分類									
要素ヘッダ	要素		撮影年月			撮影年月						取得分類																	
要素ヘッダ	要素		写真縮尺			写真縮尺						取得分類																	
要素ヘッダ	要素		写真枚数			写真枚数						取得分類																	
要素ヘッダ	要素		写真番号			写真番号						取得分類																	
要素ヘッダ	要素		要素取得年月			要素取得年月						取得年月																	
要素ヘッダ	要素		ヘッド数値化区分			ヘッド数値化区分						取得年月																	
要素ヘッダ	要素		要素取得年月			要素取得年月						取得年月																	
要素ヘッダ	要素		グリッド取得年月			グリッド取得年月						取得年月																	
要素ヘッダ	要素		注記			注記						取得年月																	
要素ヘッダ	要素		文字列の方向			文字列の方向						取得年月																	
要素ヘッダ	要素		字大			字大						取得年月																	

注 1. データファイル単位で作成する。
 2. 該当しない項目欄は斜線で抹消する。
 用紙の大きさはA4判とする。

写真地図作成精度管理表

世界測地系(測地成果○○○○)

作業名	作業機関名		主任技術者		点検者	
地区名	図郭名	作業期間	自	年	月	日

写真地図データファイル

数値地形モデル

番号	測定値		検測値	残差	番号	平面位置		測定値	検測値	残差
	x	y				X	Y			
1					1					
2					2					
3					3					
4					4					
5					5					
6					6					
7					7					
8					8					
9					9					
10					10					
11					11					
12					12					
13					13					
14					14					
15					15					
16					16					
17					17					
18					18					
19					19					
20					20					
21					21					
22					22					
23					23					
24					24					
25					25					
色調	至み	写真接合	図郭接合	平均値	地図情報レベル		平均値			
					水平位置 (標準偏差)			最大値		
					標高点 (標準偏差)				標準偏差	

注 点検箇所は 21 点以上とする。

用紙の大きさは A 4 判とする。

グラウンドデータ作成作業精度管理表

作業地区名	作業量	k m ²	作業機関名	印
			主任技術者	
			点検者	

フィルタリングの点検結果							備考			
図名	交通施設			建物等	小物体	水部等		植生	低密度の範囲	その他
	道路施設等	鉄道施設等	移動物体							

注 1 : 表は地図情報レベル 5000 単位でまとめ、地図情報レベル 2500 単位に記録する。

注 2 : フィルタリングの点検記録は、不処理の数を面単位で記載する。

用紙の大きさは A 4 版とする。

グリッドデータ作成作業精度管理表

作業地区名	作業量	作業機関名	k m ²		備 考
			主任技術者	点検者	
			印		
グリッドデータ作成作業の点検記録					
図 名	標高値の誤り	グリッドの不備	属性データの不備	接合の不備	

注 1 : 地図情報レベル 5000 単位でまとめ、地図情報レベル 2500 単位に記録する。
 2 : 点検記録は、不処理の数を記載する。
 用紙の大きさは A4 判とする。

数値地形図データファイル精度管理表（航空レーザー測量）

作業地区名	作業機関名		作業量 k m ²	数値地形図データファイル作成作業の点検記録					備考	
	主任技術者			ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造の 良否	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造の 良否	ポリゴン図形 ファイル構造の 良否		
	点検者									
地図情報レベル 2500図名	印		印							
項目	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造 の良否	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造の 良否	テキストフォー マットの良否	ヘッドフォーマ ットの良否	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造の 良否	ポイント図形 ファイル構造 の良否	ポイント属性 ファイル構造の 良否
オリジナルデータ										
グラウンドデータ										
グリッドデータ										
水部ポリゴンデータ										

注 1：点検記録は、不処理の数を記載する。
用紙の大きさはA 4 判とする。

応用測量精度管理表

路線測量精度管理表

仮BM設置測量精度管理表・・・水準測量に準ずる

詳細測量精度管理表・・・・・・縦断測量、地形測量及び写真測量に準ずる

河川測量精度管理表

- 距離標設置測量精度管理表・・・中心線測量に準ずる
- 水準基標測量精度管理表・・・水準測量に準ずる
- 定期縦断測量精度管理表・・・縦断測量に準ずる
- 定期横断測量精度管理表・・・横断測量に準ずる
- 法線測量精度管理表・・・中心線測量に準ずる
- 海浜測量精度管理表・・・横断測量及び地形測量に準ずる

用地測量精度管理表

用地実測図データファイルの作成精度管理表

地区名	地図情報レベル		作業機関				主任技術者				点検者			
〇〇地区	〇〇		(株) 〇〇				〇〇 〇〇 印				〇〇 〇〇 印			
図名又は図面番号	〇〇の1													
指摘 項目	誤 記	脱 落	誤 記	脱 落	誤 記	脱 落	誤 記	脱 落	誤 記	脱 落	誤 記	脱 落	誤 記	脱 落
基準点位置														
基準点名称														
基準点の座標値														
中心点位置														
中心点名称														
境界点位置														
境界点名称														
境界標の種類														
用地取得線														
境界線・行政界														
境界方向線														
土地の所在														
地番														
符号・不動産番号														
境界辺長														
地目														
所有者等														
面積計算書	地番													
	符号・不動産番号													
	地目													
	所有者等													
	境界点名称													
	境界点座標値													
	境界点間距離													
	面積													
	一筆地実測地積													
公簿地積														
接合														
整飾														
図郭・方眼寸法														

- 注1. 「図郭・方眼寸法」は規定寸法より0.4mm以上の差が出たものを記載する。
2. 該当項目に集計する場合は、用地実測図のデータ項目に従って集計する。
3. 画線の太さの相違及び図式の誤りは誤記に含める。
4. ネットワーク型RTK法による場合は、電子基準点の名称を記載する。
5. 辺長の点検は、数値及び図示寸法とする。
6. 登記情報による地目はカッコ書きとする。
7. 計算書の最後に、残地を含め一筆地実測地積を合計する（該当地番のみ）
8. 図面に該当項目のないものは斜線で該当欄を消す。
9. 土地の分筆をした場合など不動産番号が確定していない場合は、地番に符号をつける。
（例えば309-2A 309-2は地番でAは符号）

用地平面図データファイルの作成精度管理表

地区名		地図情報レベル		作業機関				主任技術者				点検者			
○○地区		○○		(株)○○				○○ ○○印				○○ ○○印			
図名又は図面番号		○○の1													
項目	指摘	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱	誤	脱
		記	落	記	落	記	落	記	落	記	落	記	落	記	落
基準点位置															
基準点名称															
中心点位置															
中心点名称															
境界点位置															
境界点名称															
境界標の種類															
用地取得線															
境界線・行政界															
土地の所在															
地番															
符号・不動産番号															
地目															
所有者等															
公共用地名称															
建物	図示														
	*家屋番号														
	*種類														
	*構造														
	*床面積														
*所有者等															
*恒久的地物															
*引照データ															
構囲・小物体等															
接合															
整飾															
図郭・方眼寸法															

- 注1.「図郭・方眼寸法」は規定寸法より 0.4 mm以上の差が出たものを記載する。
2. 該当項目に集計する場合は、用地平面図のデータ項目に従って集計する。
 3. 画線の太さの相違及び図式の誤りは誤記に含める。
 4. 登記情報による地目はカッコ書きとする。
 5. 図面に該当項目のないものは斜線で該当欄を消す。
 6. *印は計画機関の指示により、とくに記載する事項。
 7. 土地の分筆をした場合など不動産番号が確定していない場合は、地番に符号をつける。
(例えば 309-2A 309-2 は地番で A は符号)

2. 品質評価表

各測量共通

品質評価表 総括表

製品名	タイトル(製品を表す名称)		
ライセンス	著作権がある場合は組織名称	作成時期	作成年月日
作成者	本製品を作成する組織名称	座標系	利用した座標系
領域又は地名	地理範囲(作成地域)	検査実施者	組織名称、役職名称、個人名称

番号	データ品質適用範囲	品質要求					品質評価結果 (合否)
		完全性	論理 一貫性	位置 正確度	時間 正確度	主題 正確度	

【参考】

- ・空間データ製品仕様書作成マニュアル JPGIS 版 Ver.1.0 H17.3 国土地理院
- ・空間データ品質評価に関するガイドライン 品質評価手順書 Ver.1.0 H16.3 地理情報標準普及・利用推進委員会、国土地理院
- ・JMP2.0 仕様書 国土地理院
- ・品質の要求、評価及び報告のための規則 Ver.1.0 H19.3(一部改定) 国土地理院

用紙の大きさはA4判とする。

品質評価表 個別表

データ品質適用範囲				
品質要素		品質要求	品質評価方法	品質評価結果
完全性	過剰			
	漏れ			
論理 一貫性	書式一貫性			
	概念一貫性			
	定義域一貫性			
	位相一貫性			
位置 正確度	絶対又は外部 正確度			
	相対又は内部 正確度			
	グリッドデータ位置 正確度			
時間 正確度	時間測定正確度			
	時間一貫性			
	時間妥当性			
主題 正確度	分類の正しさ			
	非定量的属性の 正しさ			
	定量的属性の 正確度			

1.データ品質適用範囲は、品質評価の対象とするデータの内容又は範囲を記述する。

(地物の名称等データの特性や空間的な範囲、時間範囲を指定する。)

2.品質要求は、製品仕様書に記述されている品質要件の概要を記述する。

3.品質評価方法は、製品仕様書に記述されている品質評価方法の概要を記述する。

4.品質評価結果は、品質評価方法に基づいた評価結果を記述する。

用紙の大きさはA4判とする。

3. 成 果 等

基準点測量

基準点成果表 その 1

世界測地系 (測地成果〇〇〇〇〇)
 ジオイド・モデル〇〇〇〇〇 Ver. 〇
 調製 年 月 日

基準点成果表						
(AREA)						
<hr/> B X L Y N H 柱石長 縮尺係数						
視準点の名称		平均方向角		距 離		備 考
				m		
埋標形式	地 上	地 下	屋 上	標 識 番 号	標 石 金 属 標	

用紙の大きさはA4判とする。

注 直接水準測量で標高決定されている場合、標高右隣に「(直接水準による)」と記載する。

点 の 記

様式第3-3

ふりがな 点 名		1/20 万図名	1/2.5 万図名	
選点番号	第 号	埋標形式	(保護石 個)	
標識番号	第 号		柱石長	
所在地				地 目
所有者				
選 点		選 点 者		
設 置		設 置 者		
観 測		観 測 者		
自動車到達地点				
歩道状況				
徒歩時間(距離)				
点周囲の状況				
履 歴 (1)				
履 歴 (2)				
備 考				アンテナ高 m
要 図 縮尺：1/ N 				

用紙の大きさはA4判とする。

成果数値データファイル標準様式

基本構造

- 1) 1行1レコードのカンマ区切りのテキストファイルとする。
- 2) 文字コードはASCIIコード、漢字コードはシフトJISコードとする。
- 3) 拡張子は“TXT”とする。
- 4) レコードの記述方法

データ区分	区切り	項目1	区切り	・・・	項目n	区切り	CRLF
-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

データ区分 その行のデータの種類の表す記号。1文字目が英字、2,3文字目が数字の3文字とする。
 区切り 各データの項目は、「,」（カンマ）によって区切るものとする。
 項目を省略する場合は、「, ,」とする。（スペースは入れない。）
 項目1～項目n データ区分に応じて項目数は変わる。項目数は記述内容のとおり。
 CRLF 各行の終了コード（0D0Ah）で、各行の最大長は、CRLFを含まず、128バイトとする。

留意事項

- 1) 名称・コメントなど、文字として認識するデータには、“,”（カンマ）を使用しない。
- 2) 点名称、測器名称、標尺名称、水準点番号などの名称、コメントは全角文字（英数字については半角文字を原則とする）とし、それ以外のデータは、半角文字とする。

記述内容

1) 説明文

データ区分：Z00～Z03

内 容：作業内容のコメントを記載する。

Z00 コメント(省略可)、フォーマット識別子、フォーマットバージョン(02.00で固定)

Z01 業務タイトル名(基準点のみ省略可)

Z02 測地系 (0(世界測地系)、1(日本測地系))、平面直角座標系番号(省略可) : Z02は基準点のみ適用

Z03 水準成果の種類 : Z03は水準点のみ適用

2) 開始データ

データ区分：A00(基準点)、S00(水準点)

内 容：成果表データの開始フラッグ

3) データ

データ区分：A01(基準点)、S01(水準点)

内 容：点番号、点名称、緯度、経度、X座標、Y座標、座標系、標高、等級

①点番号：基準点は5桁の整数、水準点は11桁の整数を標準とする。

②名 称：40バイト以下

③緯 度：小数点形式とし秒以下4桁とする。(DD° .MM' SS"SSSS)

④経 度：小数点形式とし秒以下4桁とする。(DDD° .MM' SS"SSSS)

⑤X座標：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下1桁までとする。

⑥Y座標：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下1桁までとする。

⑦座標系：平面直角座標系番号

⑧標 高：小数点形式、m単位とし、基準点はm以下3桁まで、水準点はm以下4桁までとする。

⑨等 級：(水準点に適用) 2桁の整数とする

11～13：1等～3等

21～24：1級～4級

25：簡易

4) データの終了

データ区分：A99(基準点)、S99(水準点)

内 容：成果表データの終了フラッグ

測量標設置位置通知書

級	点		所在地	地目	標識		設置年月日	備考
	番号	名称			種類	番号		
			〇〇県〇〇郡〇〇町〇〇字〇〇246-8					

用紙の大きさはA4判とする。

測量標新旧位置明細書													
作業区分	級種別	番号・名称	新 旧	所在地	地目	敷地面積	復旧を行った理由	設置年月日	備考				
										新	旧	新	旧
移転	Ⅲ△	冠(○)○○	新	○○県○○郡○○町○○字○○246-8	○○○		測量標効用保全のため	H 12.6.21					
			旧					○○県○○郡○○町○○字○○37					
			新										
			旧										
			新										
			旧										
			新										
			旧										
			新										
			旧										

作業区分欄には移転、改埋、再設または廃棄の区分を記載する。
用紙の大きさはA4判とする。

地形測量及び写真測量

デジタル航空カメラ撮影諸元

撮影地区名		作業機関名		主任技術者	
地上画素寸法	cm	使用カメラ（製造番号）			
メディアラベル名					
番号	コース名	数値写真ファイル名	数量	撮影年月日	備考
1		～			
2		～			
3		～			
4		～			
5		～			
6		～			
7		～			
8		～			
9		～			
10		～			
11		～			
12		～			
13		～			
14		～			
15		～			
16		～			
17		～			
18		～			
19		～			
20		～			
21		～			
22		～			
23		～			
24		～			
25		～			
26		～			
27		～			
28		～			
29		～			
30		～			

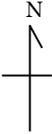
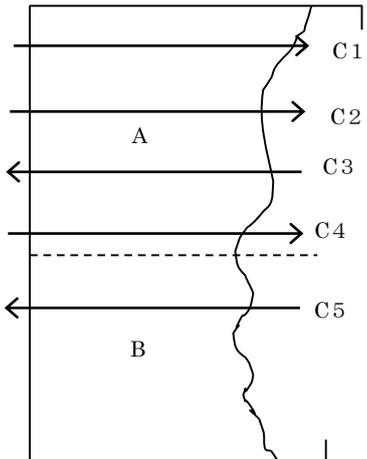
用紙の大きさはA4判とする。

空中写真数値化 作業記録簿・点検記録簿

地区名	2500都市計画図作成 ○○地区	作業機関	○○○○株式会社	作業者	○○○○
数値化年月日	2005.12.15	撮影縮尺	1/12,500	航空カメラ	RC-30/153.96
使用スキャナ装置	PhotoScan	スキャナ 点検証明書 取得年月日	2005.08.22	点検機関	□□□□株式会社

点検項目

項目	内容	良否	備考
ランプ	スキャナランプ切れ・照射不足がないかを確認する	良	
電源	スキャナの電源部分に故障がないかを確認する	良	
システム	数値化ソフトウェアが正常に動作することを確認する	良	
動作異常	スキャナ動作時における動作異常がないことを確認する	良	
テストスキャン	数値化結果に幾何精度・輝度値に異常がないかを確認する	良	

コース No.	開始 時刻	終了 時刻	数値化 寸法	ビット 数	画像 形式	写真番号	枚 数	飛行 方向	摘要	(撮影地域全域を表示する)		
												
4	11 ^h 32'	12 ^h 12'	0.021	24	TIFF	1 - 19	19	→				
3	13 ^h 05'	13 ^h 52'	〃	〃	〃	1 - 20	20	←				
2	14 ^h 12'	15 ^h 06'	〃	〃	〃	1 - 19	19	→				
1	15 ^h 17'	16 ^h 27'	〃	〃	〃	1 - 21	21	→				
5	16 ^h 34'	17 ^h 16'	〃	〃	〃	1 - 17	17	←				
								枚	合計			
								枚	枚			

数値化寸法の単位はmmとする。ビット数が「8」は白黒、「24」はカラーを意味する。

用紙の大きさはA4判とする。

航空レーザ測量システム点検記録

作業名		機体		平成	年	月	日
				点検者			
キャリブレーションサイト名							
機器名		番号					
離陸時間	時	分	計測開始	時	分		
着陸時間	時	分	計測終了	時	分		

ローリングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值 (角度)	備考
C-							

ピッチングキャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值 (角度)	備考
C-							

横縮尺キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值	備考
C-							

標高値（測距）キャリブレーション

コース名	対地速度	対地高度 (ft)	FOV (度)	パルスレート (Hz)	スキャンレート (Hz)	補正值 (cm)	備考
C-							

キャリブレーション後の標高差

cm

用紙の大きさはA4判とする。

固定局明細表

世界測地系（測地成果〇〇〇〇）

ジオイド・モデル〇〇〇〇 Ver〇

点名		1/5万地形図名		観測者	
観測年月日		標識種類		点検者	
所在地					
所有者	連絡先				
座標系	平面直角座標系				
座標	X	m	標高	m	
	Y	m			
経緯度	B				
	L				
電子基準点番号					
GNSS機種		解析ソフト名			
観測レート		秒	仰角	° 以上	
機械高		m	観測時間	h	m
PDOP			衛星数	衛星	
平面位置図			観測写真		

用紙の大きさはA4判とする。

航空レーザ計測記録

様式第 3-18

地区名	作業機関			計測士	操縦士		
計測年月日	基地			機体	JA	離陸時間	時 分
高度	基地標高			速度		着陸時間	時 分
	基準面					計測機器名 No.	
気象	天気	気流	風向	風速	気温		
	開始時間	終了時間	偏流角	コース	開始時間	終了時間	偏流角
コース							
撮影略図							

* コース番号は、連続の場合は省略してもよい。開始時間、終了時間は最初と終了で途中のコースは省略できる。

* 偏流角も適宜省略できる。
用紙の大きさは A4 判とする。

調整用基準点・ コース間点検箇所

様式第3-19

配点図

作業年度	地区名	作業機関名	(計測コース)
C1	▽基1	▽基2	C1
C2	○T1-1	○T1-2 ○T1-3 ○T1-4	C2
C3	○T2-1	○T2-2 ○T2-3 ○T2-4	C3
C4	○T3-1	○T3-2 ○T3-3 ○T3-4	C4
C5	○T4-1	○T4-2 ○T4-3 ○T4-4	C5
C6	○T5-1	○T5-2 ○T5-3 ○T5-4	C6
	▽基4	▽基5	

注：一覧図は、1/25,000 地形図又は 1/50,000 地形図を使用する。
 調整用基準点は一辺 4mm の正三角形、点検ポイントは半径 2mm の円で表示する。また、名称を記載する。
 用紙の大きさは A4 判とする。

調整用基準点明細表

世界測地系 (測地成果〇〇〇〇)

ジオイド・モデル〇〇〇〇 Ver〇

点 名		1/5 万地形図名		作 業 者			
作業年月日		座 標 系		点 検 者			
点 名	X	・	N	Y	・	E	H
1 / 2.5 万見取図				地 上 写 真			
計測点図							

用紙の大きさは A 4 判とする。

三次元計測データ点検表

世界測地系 (測地成果〇〇〇〇)

地区名					作業者	
					点検者	
点名					実測値 H =	m
No.	X	Y	Z	ΔZ 較差(H-Z)	備考	
点数(n)						
平均値($\bar{\Delta Z}$)						
最大値						
最小値						
RMS 誤差 = $\sqrt{\frac{\sum (\Delta Z)^2}{n}}$						

用紙の大きさは A4判とする。

調整用基準点調査表

世界測地系（測地成果〇〇〇〇）

地区名					作業者				
					点検者				
番号	点名	水準結果	三次元計測データの平均	水準との差 ΔH	番号	点名	水準結果	三次元計測データの平均	水準との差 ΔH
1					11				
2					12				
3					13				
4					14				
5					15				
6					16				
7					17				
8					18				
9					19				
10					20				

	データ数	平均値(m)	最大値(m)	最小値(m)	最大値-最小値	標準偏差 $=\sqrt{\frac{\sum(\Delta H)^2}{n-1}}$
計測範囲全域の水準との差						

用紙の大きさはA4判とする。

欠測率調査表

地区名							作業者	
							点検者	
図名	欠測率%	図名	欠測率%	図名	欠測率%	図名	欠測率%	
全域平均		最小		最大				

用紙の大きさはA4判とする

既存データ検証結果表

様式第3-26

地区名 (A)					作業者	
隣接地区名 (B)					点検者	
図名	計測点数		計測点標高平均値		較差	備考
	A地区	B地区	A地区	B地区		
*本地区をA地区とし、隣接地区をB地区とする。						
最小値						
最大値						
平均値						
RMS誤差						

※RMS誤差 = $\sqrt{(\text{平均値})^2 + (\text{標準偏差})^2}$

用紙の大きさはA4判とする。

応用測量

点 の 記



路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類	路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鉋、刻み			木杭、プラ杭、鉋、刻み
所在地			所在地		
要 図			要 図		
路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類	路線番号	点 番 号	標 識 の 種 類
		木杭、プラ杭、鉋、刻み			木杭、プラ杭、鉋、刻み
所在地			所在地		
要 図			要 図		

用紙の大きさはA4判とする。

平成 年 月 日

土地所有者 住所
 電話番号
 氏名 印

隣接土地所有者 住所
 氏名 印
 住所
 氏名 印
 住所
 氏名 印

土地境界確認書

下記記載の土地の境界は、現地で立会いのうえ、相違ないことを確認しました。

都 市 区 町
 県 郡 区 村

区分	大字	字	地番	地目	登記簿地積	登記名義人	摘要
対 象 地							
	不動産番号						
隣 接 地	不動産番号						
	不動産番号						
隣 接 地							
	不動産番号						
隣 接 地	不動産番号						
	不動産番号						

用紙の大きさはA4判とする。

整理番号		土地調査表																					
調査年 月 日	土地の登記記録調査 法人登記簿又は 商業登記簿調査	調査者	用地積	用地積	用地積	用地積	用地積	用地積	用地積	用地積	用地積												
												権利者調査	現況調査	課税評価格	所有権以外の権利又は仮登記及び予告登記の調査								
																残	地積	地積	地積	地積	地積	地積	地積
分割	の	部	現況調査																				
表題部	不動産登記簿	甲区欄	所在地	都	郡	市	区	町	大字	字	村	地番	地目	不動産番号	地積	所有者	備考	連絡先電話番号					
権登業 利記登 者簿記 法又簿 人は調 査商 査																							
その他土地等の評価に必要な資料の調査																							

建物の登記記録等調査表

調査年月日		調査者		整理番号			
1. 建物の登記記録調査							
所在地	都 県	市 郡	区	町 村	大字	字	番地
所有者	住所又は所在地		種 類	構 造	床 面 積	建 築 年 次	備 考
	氏名又は法人・代表者氏名						
家屋番号	主 家 ・ 附 属 の 別						
所有権以外の権利者に関する事項及び仮登記等の事項			法定代理人等				
2. 立木の登記記録及びその他の登記簿調査							

用紙の大きさはA 4 判とする。

権利者調査表

調査年月日		調査者		整理番号			
土地に関する権利者 (被相続人又は法人)	住所	所在地	法定代理人又は保佐人の住所及び氏名	住所			
	氏名又は名称 生年月日	氏名又は名称 生年月日		氏名			
	本籍地	本籍地	法人を代表する者の住所及び氏名	住所			
	相続年月日	相続年月日		氏名			
相続人の氏名	生年月日 死亡年月日	被相続人との続柄	住所	本籍	相続分	摘要	符号

(注) 1 「摘要」の欄には相続放棄、相続欠格などを記入のこと。
2 相続系譜は別紙に作成すること。

用紙の大きさはA4判とする。

4. 建標承諾書

建 標 承 諾 書

平成 年 月 日

殿

所有者 住所

管理者 氏名

印

基 準 点	等 級	名 称	標 識 番 号
	級		

所在地	都道府県	市 郡	町 村	大 字	字	番 地	俗 称	地 目

上記 地内に 級 点の標識を
設置することを承諾する。

用紙の大きさはA4判とする。

- 注1. この標識は○ ○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
2. なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
3. 不要の文字は抹消すること。

建 標 承 諾 書

平成 年 月 日

殿

所有者 住所

管理者 氏名

印

水 準 点	等 級	名 称	標 識 番 号
	級		

所在地	都道府県	市 郡	町 村	大 字	字	番 地	俗 称	地 目

上記 地内に 級 点の標識を
設置することを承諾する。

用紙の大きさはA4判とする。

- 注1. この標識は○ ○で設置したもので各種測量の基準となる重要な標識でありますから、動かしたり、破損したり、しないようご注意願います。
2. なお、記載内容は、測量標の利用者が所在地及び所有者を確認するために必要となる測量記録（点の記）に記載されます。
3. 不要の文字は抹消すること。